



# 谷藤EYE通信

医療法人泰明会 谷藤眼科医院 盛岡市前九年二丁目2-38

URL <http://www.5d.biglobe.ne.jp/~tanieye/>

平成17年(2005年)

4月・5月・6月号

No. 15

Tel : 019-646-2227

Fax : 019-645-3811

## 花粉症

院長 谷藤 泰寛

雪解けと共に北国の岩手でもスギ花粉が飛散し始め、国民病と言われるまでになった花粉症に悩む人にとっては、まさに悩ましい季節となります。眼科ではアレルギー性結膜炎ということになりますが、花粉症は杉やイネ科の場合のように、毎年決まった季節に発症する特徴があります。しかし身の周りにある常に存在するダニ、真菌、動物のフケなどの抗原によるものは通年性の場合もありますが、ダニや真菌によるものでも、その繁殖時期から春・夏だけにかゆみや、充血、涙などの症状が出ることもあって一概には言えません。これらは即時型といわれる反応ですが、アトピー性皮膚炎と合併するタイプも含まれます。

これらのタイプとは別に、春季カタルという10歳前後の男児に多く発症して、結膜に大きな乳頭状変化や黒目の周りに盛り上がった増殖変化を生じ、場合によっては角膜に障害がおよび、痛みのために眼が開けられない状態になってしまうことがあります。この場合には重症のアトピー以外は慢性に経過し、中学生ぐらいになると自然に治癒することが多いようです。

治療としては、季節性のある場合には、発症の予想される1~2週間前から抗アレルギー薬の点眼をお勧めします。重症化しそうな場合に

は、副作用の少ないステロイド点眼を併用します。春季カタルの場合には、ステロイドの結膜下注射を必要とすることもあります。これらの際には眼圧上昇に注意する必要があります。

予防として花粉対策には、予防のための眼鏡やマスクの使用、外出後の洗顔。ダニやカビ対策としては、居間や寝室の掃除を十分に行うことや、埃の付着し易いじゅうたん、カーテンなどは使用しないなどの工夫が必要です。地球温暖化に伴って花粉の飛散量が増加したり、排気ガスなどによる大気汚染物質の化学反応が亢進したりして、新たな抗原物質が発生する可能性が指摘されており、根本的な環境の浄化には社会的にも長期的に取り組む必要がありそうです。



春季カタル



## 当院における 最新白内障手術装置の導入

副院長 姜 和哲

今年の冬は例年以上の大寒波に見舞われましたが、こんな大雪の中でも毎日たくさんの患者様が当院に足を運んでいただき、大変うれしく思っております。逆に、私は患者様一人一人からたくさんの元気をいただくことができ、体調も崩さずこの冬を越すことができました。

さて、昨年より当院では数多くの患者様から白内障手術の申し込みをしていただいております。現在の報道において、白内障手術は、『日帰り手術』として定着しつつあり、短時間かつ画一的で、いとも簡単な術式ととらわれがちですが、それは大きな間違いであり、決して簡単な手術ではありません。一概に白内障といっても、年齢や水晶体混濁の程度はもちろん、糖尿病や高血圧などの全身疾患の有無、緑内障や眼底疾患といった合併症の有無により千差万別なのです。そのため私たちは、手術に至るまで十分な診察と検査を行い、手術による合併症を減らすよう努力をしていますが、残念ながら術後一時的に眼圧が上がったり、角膜がむくんだり（浮腫）する合併症が生じ、視機能が安定するまで時間がかかって

しまう患者様も中にはいらっしゃいます。少しでもこのような合併症を減らそうと、当院では最近新しい白内障手術装置（INFINITI；Alcon社）を導入いたしました。

水晶体はもともと粘り気のある固

い組織で、そのままでは吸い取ることができないので、超音波で砕いてから吸い取ります。当然白内障が進行する、つまり水晶体が固くなればなるほど、超音波をたくさん発振しないと砕けないため、術中眼内が安定せず、時間もかかる上に、その分角膜にも負担をかけることとなります。このようなことが術後の合併症を引き起こす大きな原因となっているのです。

そこでこの新しい白内障手術装置には、今までの装置よりも少ない超音波で破碎することができるようになり、術中の眼内をセンサーでモニターリングすることで一定に保つ機能が搭載されています。つまり写真のようなある程度の進行した白内障でも、角膜に対する負担が軽減されるため、術後の合併症を減らし、術後早期の視機能安定が望めるようになりました。だからといって、白内障が進行し過ぎて高度な視力低下になるまで我慢してから手術をしてもいいということにはなりません。当然水晶体の濁りが少なければ少ないほど、合併症はおこりにくいのです。このような装置がいかに発達しても、白内障がある程度進行したら、適当な時期に手術を受けることが肝心です。





## 輝いている子供たちのメガネ 視能訓練士 村上 越子

小児の視力発達で大切な時期は、9歳ぐらいまでです。この時期が勝負なのです。この発達の過程で、しっかりと鮮明な像を網膜から脳に刺激として与えないと、いくら合ったメガネを掛けても視力は出ません。（これを弱視といいます）

この時期が、実は弱視になるかどうかの分かれ道なのです。弱視になると将来自動車の運転免許や就職など、視力が必要なときに治療しても、回復することは困難です。

治療方法として、メガネなどで矯正し常用することが第一です。よって子供のメガネと大人のメガネの効果は異なります。大人は、ハッキリ物を見たいからメガネをかけます。子供は、視機能が発達する上での大切な治療法のひとつとなるのです。だからメガネをかけている子供たちはとっても遅いのです。

そこでお願いがあります。そんな子供に「かわいそう」や「こんな小さい子なのに」と、声をかけないでください。声をかけるなら、「上手にメガネかけてるね」・「とっても似合ってかわいいね・かっこいいね」などと、褒めてあげてください。子供たち自身はメガネに慣れ、かけると見える！と気が付き好んでかけるようになります。私たち大人は、子供たちのそんな成長過程を見守って応援してあげましょう。



## 友達との再会 受付事務 相内 有沙

先日高校卒業以来の友達と約5年ぶりに会いました。いつもは手紙やメールでのやり取りだけだったので、「こんな表情だったなあ」という感じで懐かしく思いました。

お互いの心境や昔の思い出話などで、盛り上がりとても楽しい時間を過ごすことが出来ました。離れてはいるものの友達の良さを、改めて実感したような気がしました。

## 白内障手術（２）

小野哲男様

写る物げに鮮やかに色彩のさやかに見ゆる手術受けし眼

病室の窓にひろがる盛岡の夜景ことさら美しくみゆ

病室のベットに伏してうたつづるわれを冬の陽ほつこり包む

退院の喜び抱き夕暮るる街を木枯らし過ぎてゆきぬ

### お知らせ（変更・追加がある場合もございます。）

- 4月9日(土) 日本眼科医会第1回理事会；院長出席予定
- 4月16日(土) 第307回岩手眼科集談会
- 5月14日(土) 日本眼科医会第2回理事会；院長出席予定
- 5月21日(土) 第27回眼科コメディカル試験
- 6月11日(土) 開院記念日（24年）
- 6月17日(金)～19日(日) 第44回日本白内障学会・第20回日本眼内レンズ屈折手術学会  
(京都市)；院長出席予定
- 6月18日(土)～19日(日) 第21回日本眼科看護研究会（京都市）；  
(発表) 櫻田亜佐子・小野・藤村出席予定

※内科診察予定：毎月第2・第4木曜日です  
(都合により変更になる場合もあります。診察を受ける患者様は、ご確認の上来院お願いいたします)

### 報 告

- 1月8日(土) 日本眼科医会第6回理事会；院長出席
- 1月15日(土) 看護師部門勉強会
- 1月22日(土) 第306回岩手眼科集談会；院長・副院長・村上・谷藤（は）出席
- 1月28日(金)～30日(日) 第28回日本眼科手術学会総会（大阪市）；院長・副院長出席
- 2月5日(土) 日本眼科医会第7回理事会；院長出席
- 2月19日(土) 看護師部門勉強会
- 2月19日(土) いわてORTの会（県立中央病院：静的視野）；小原・谷藤（は）出席
- 2月22日(火) 検査部勉強会
- 3月14日 看護師 石原英治入社
- 3月19日(土) 看護師部門勉強会
- 3月24日(木)～27日(日) 第109回日本眼科学会総会（京都市）；院長出席